

令和5年度 第5回大和市下水道運営審議会会議録（抜粋）

【開催日時】 令和6年2月2日（金） 午前10時00分～午後0時15分

【開催場所】 市役所5階 第5会議室

【出席状況】 委員10名（欠席1名）：

石田裕会長、扇原博委員、橋本幸生委員、関水秀樹委員、
塩沢雍子委員、小野佐枝子委員、長谷川幸江委員、大谷勝也委員、
山谷詠一委員、袴田史委員

市側6名：

環境施設農政部長、下水道経営課長、下水道・河川施設課長、水質管理センター所長 ほか担当職員2名

【公開・非公開の状況】 公開 非公開 一部非公開

【傍聴人】 1名

【審議又は検討の経過及び結果】

●会議次第：1 開会

2 議題

(1) 下水道使用料の改定について

- ・ 事前送付資料1～5の説明は省略
- ・ 当日配布資料6～8について事務局から説明

⇒今回、発言のあった意見（以下の②以降）に対する市からの説明は、時間がなく行うことができなかつたため、紙面で作成し、合わせて、答申の素案を作成して事前送付することとなった。

3 その他

●主な質疑内容の要約：

2 議題

(1) 下水道使用料の改定について

(委員)

① 意見：答申の作成に向けた下水道使用料単価の適正の確認にあたっては、

- (1) 「汚水処理費の算定額の精査」
- (2) 「汚水処理費の削減の実施状況と今後の取組み」
- (3) 「改築更新及び耐震化の実施状況と今後の取組み」に加え、

市が経済状況をしっかりと見極めて改定実施を判断したのかという審議事項を追加したい。

⇒次回、審議事項とするかを定めることとなった。

(委員)

② 意見：令和4年度に県が取りまとめた、広域化・共同化の計画はどうなっているのか。また、本市の処理場の統廃合の検討は行ったのか。

(委員)

- ③ 意見：新型コロナウイルスの感染拡大でも使用料の改定を行っている市が県内にある。計画的に改定を行わずに、期間が長くなり改定率が高くなったのは市の問題ではないか。

(委員)

- ④ 意見：下水道使用料の平均改定率が高い要因は、下水道事業では、電気やガスのように競争原理が働かないためではないのか。

(委員)

- ⑤ 意見：一気に経費回収率を100%にしなければならない理由がわからない。国庫補助金の交付要件でも、経費回収率をすぐに100%とすることは求めている。

(委員)

- ⑥ 意見：段階的に引き上げることができない理由には、現在、物価上昇などで苦しんでいる市民目線がない。

(委員)

- ⑦ 意見：市民が節水の努力をすると、結果、下水道使用料が引き上げられるのはおかしい。今回の改定で引き上げて、また3年後に引き上げ、その後も引き上げが必要というのはおかしい。引き上げを行わなくても良い経営はできないのか。

(委員)

- ⑧ 意見：経費回収率を一気に100%にする必要性があるのか。

(委員)

- ⑨ 意見：経費回収率を100%にしないで、下水道使用料の不足を市税で補てんすることとする場合には、全ての納税者が納得できる理由付けが必要と考える。

(委員)

- ⑩ 意見：「本市の一般会計の財政が厳しい状況にある」とのことであるが、令和5年度当初予算では自主財源が約21億円増加しており、厳しい状況にあるとは思えない。

(委員)

- ⑪ 意見：市税の投入は、国民健康保険事業、介護保険事業、後期高齢者医療事業の特別会計や病院事業でも行われている。下水道事業だけ市税での補てんを行わないのはおかしい。

(委員)

- ⑫ 意見：汚水を大量に排水する使用者の改定率を高くし、銭湯の排水は汚れが少ないので改定は不要としてはどうか。

(委員)

- ⑬ 意見：能登半島地震を教訓として、上水道及び下水道の復旧に時間がかかっており、市民生活などに影響が出ていることから、老朽化施設の更新や耐震化を今まで以上に早く進める必要がある。